

あたりまえのこと

あたりまえに話せること

河合靖久

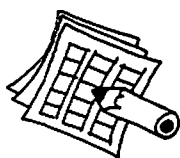
同一校に十二年目を迎えたら、町の県外教育視察の番が来ました。

選んだ視察先は、長野県諏訪市高島小学校です。この学校は、最近NHK教育や、IIP・Mに登場しました。低学年が、教室で、犬や山羊を飼ったり、三年がかりでヨットを作ったり、諏訪湖で訓練したり、これも三年がかりで連だこを作り「ギネス」に挑戦したり、一見、ゆとり、を中心の研究校かと思っていました。

かなり、自由な発想で、あれだけのことがやれるのは、小規模校に違いないと勝手に考えていましたら、千名を越す児童数で、眼下に諏訪湖をバックに高島城を臨む諏訪市の中心校でした。山の住宅地に向かって、空地を見つけて増築していった様で、開智小学校に匹敵するような講堂と鉄筋校舎が分散してありました。しかも、鉄筋の児童玄関には、明治時代(?)からのゲタ箱が置いてある等々、さすが伝統を大事にする「信濃教育」という

印象でした。

訪問の一日目は、一日をかけての音楽会でした。最後列での見学でしたので、質の良し悪しは良くわかりませんが、選曲は、かなりハイレベルだと思いました。同行の教務主任も、音楽の先生はっか集めたんじゃないか?と疑っていましたが、終了後、校長の話聞いて納得し、うらやましく思いました。基本的には特別のことをやっているのではなく、子どもの教育を中心にすえた学校として、あたりまえのことを、あたりまえに(かなり努力して)やっていることの「すばらしさ」だと思います。



さて、音楽会の感想から述べ、二学期に入ってから、すぐ準備されるのですかの質問に、

① 当校の先生方は、やや高度な選曲の傾向がある。

② 行事・教育活動は、学級中心に動いている。

③ 原則として、担任も児童も、六年間かわらない。(子どもも、親も、六年間本気でつき合ってもらえない……)

特に③については、担任の責任と誇りに支えられており、新潟県と異なる「教育」の伝統を感じました。

音楽会にしても、終わった時点で、翌年の準備が始まる学級もあり、一人ひとりの行動と全校の動きに、あせらず、息の長い取り組みが見られました。

また、校長としても、先生方がせっかちになったり、言葉だけの指導や、結果のみを追求する教育にならないよう日頃いましているとのことでした。親も教師も「早く、早く」と言い過ぎるとも……。

以下、同校林淳平校長との二日間にあたる会見メモを中心に、まとめてみます。

Q1 観光地でもあり、児童の非行は……? 最近の事例は無いとの答に続いて、対策は

① 担任の目を肥やすようにしている。今日は、あの子の顔色が悪い……。目に落ち着きがない……。担任一人では目がゆきとどかないから、学年間では、これ以上できないというほど連絡し合い、相談し合うようにしている。

② 家庭との連絡は、なにをさておいても出かけなさい。なんにも無くとも、つながりを持って。長い休み中は、電話の一言でも……。

担任は、とかく、危惧の方が先行しやすく、否定面のみを見やすい。不安定な子を安定させるのは、教師の専門性である。子どもに対する全幅の信頼と安定させるための方策を持たねば、現代の子どもは指導しきれない。いいところを見つけて、たちなおるための機会を与えるのも担任の仕事である。子どもらのために「すぐを出せ」（小まめにやれ）との言葉も耳に痛いものでした。

Q2 学級担任が、それぞれ個性を發揮すると、学校全体がバラバラになるのではないのでしょうか？

① 学級が個性を發揮すればするほど、学年間の連絡は密になる。やればやるほど不安は出て来るし、人間とは弱いもので、一人で耐えられぬ。

② うまくいけばいったで、話したいし見てもらいたくなる。

③ いそがしい、時間が無い、組織・形式が障害になっていっているうちは、まだまだ「教育」にのめり込んではいない。教育研究活動は主軸に徹底的にやるが、つまらん会議で時間は使わない。教師の姿勢が中途半端じゃ、子どもも本気で動かし、親も納得しない。

名古屋大学の重松鷹泰先生の長い指導もあ

るそうですが、あたりまえでだいじなことを以下列挙します。

。学校は、みんなで作っているのだから、互いの痛みや悩みがわかり合わねばならない。
。教育は、創造していくもの、創造のためには、学校や担任に「自由」がなければならぬ。

。教育は、担任が子どもといっしょにやっている。

。担任の実践以上のことを、校長は語れない。
。今は、教師が自信を無くし、卑屈になり過ぎてはいないだろうか？ 教育について、一番発言してないのが、現場の我々じゃないか？

。校長は、担任がやりやすいように雑音を防ぎ、時には外圧に対し攻撃もしなくちゃならぬ。

。偉い人にかっこうついたり、子どもたちに八つ当たりするくらいなら、（ゴミが気になつたら校長自ら拾えばいい）そんなことで首になるなら、なつたつていいじゃないですか。子どもらのために心中してもいいじゃないですか。

。子どもたちは、将来的価値で動かされているのにあまりにも「おとなの価値観」「目先の利益」「いそがしさ」を押し付け過ぎていないか。

。将来のために、今の子ども自体を、どう充実させるのか。そのことが大切なのではないですか。

以上、二日間の短い見学でしたが、この子らの将来と、担任個々の実践にさらに触れて見たい魅力ある話で、諏訪大社と野麦峠、歴史と進歩、革新の伝統を考えながら、長野三区より新潟三区へ帰って来ました。

（北魚沼郡・川口小学校）

